

奈良時代を今に感じる 伝統技能の継承現場

霜始降（しもはじめてふる 七十二候）
北国や山里では霜が降り始めるころ。だんだんと冬が近づいてきました。霜は、空気の中にある水蒸気が氷点下に冷えたものに触れてできる氷の結晶のこと。昔は、雪と同じように空から降ってくると思われていました。そのため、霜は「降る」といいます。

魅せる現場

さぁ行こう！～魅せる！現場～

日時：令和5年10月24日（火）

参加：25名

第5回目の魅せる現場には、建設業関係者25名が参加しました。

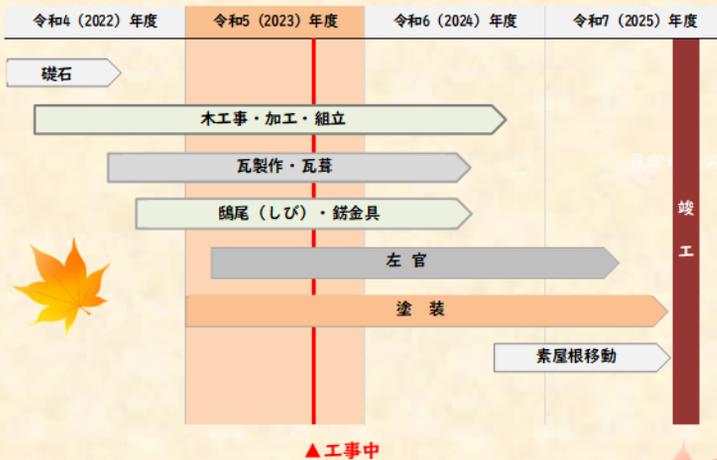
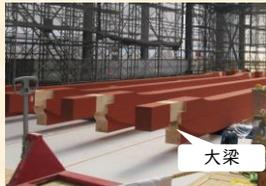
参加した見学者からは次のような意見が寄せられました。

- ・「伝統建築の現場はとても貴重で、大人も子供も楽しめる見学会だと思った。」
- ・「檜鉋の仕上げたものを手で触れ、塗装後の状態も確認できたのが印象に残った。」
- ・「古人の知恵を現代の職人が受け継ぎ、それらを残す工夫と知識に感動した。」

第五回見学会

今、知りたい～現場進捗～

- ・ 漆喰仕上げ用の荒壁土の造成中
- ・ 大梁等への塗装作業（丹土）



豆知識（木材の管理編）

江戸時代に普及した背割り技法（木材に切り込みを入れてひび割れを抑制する）は、奈良時代にはありませんでした。

今回の復原工事では、背割りを入れてない為、芯を持つ材は収縮率が異なることから乾燥して割れが生じないように時間と手間をかけて自然乾燥させ適切に管理しています。

塗装職人による伝統塗装（丹土・緑青・胡粉）の解説や檜鉋仕上げの木材に触れていた
だき当時の技法を感じてもらいました。

■現場見学ガイド ～魅せる！現場～
～2024年12月末※（終了時期未定）

■申込みサイト

<https://www.kkr.mlit.go.jp/kengaku/moushikomi/moushikomi.html>

見学申込み



■近畿地方整備局 京都管轄事務所

6・06-8395

京都市左京区丸太町通川端東入ル東丸太町34-12

京都管轄事務所

